山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

学　長　定　例　記　者　会　見　要　項

日　　時:　平成26年1月23日（木）　11:00～11:30

場　　所:事務局第二会議室（小白川キャンパス、事務局4階）

発 表 事 項

1.「プリンタブルエレクトロニクス 2014」に山形大学が出展

2. 平成25年度　山形大学卒業制作展を開催します

3. 人文学部国際学術講演会を開催します

4. 電荷密度波系で起こる磁場誘起相転移現象の機構解明に成功

5. 純米大吟醸酒「山形大学　燦樹（きらめき）2014」発売！

6. 山形大学が IdP of the Year 2013 を受賞

お 知 ら せ

1. 理学部物理学科主催で「フロンティア物理講演会」を開催

2.「科学で東北を盛り上げ隊！＠石巻」を開催

3. 大学コンソーシアムやまがた『やまがた夜話』の開催

4. モンテディオ山形杯　雪中棚田サッカー大会　in　大蕨の開催

（参　考）

○　次回の学長定例記者会見（予定）

日　　時:平成26年2月4日（火）11:00～11:30

場　　所:事務局第二会議室（小白川キャンパス、事務局4階）

プレス発表資料

平成26年1月23日
山　形　大　学

「プリンタブルエレクトロニクス2014」に山形大学が出展

山形大学**有機エレクトロニクス研究センター**及び**有機エレクトロニクスイノベーションセンター**は、有機エレクトロニクスの先端技術に関する研究開発成果の一部を、１月２９日～１月３１日に東京ビッグサイトで開催される**「プリンタブルエレクトロニクス2014」**に出展します。また、併せて経済産業省委託事業である**「山形大学有機薄膜デバイスコンソーシアム」**の中間成果の一部についても公開します。

１．有機EL照明

有機EL本来の付加価値である「フレキシブル」の実現に向け、フィルム基板を用いたフレキシブル有機ELの研究を進めています。今回100㎜角フレキシブル照明、さくらんぼイルミネーションの試作パネルを出展します。

２．有機太陽電池

山形大学で開発された近赤外光を効率良く吸収する有機材料を用い、県内企業が試作を行った半透明の有機太陽電池やフレキシブルな軽量・薄型有機太陽電池など、最新の研究開発成果を出展します。

３．有機トランジスタ

塗布型有機半導体を用いた有機トランジスタにより100ppi※画素密度の有機ＥＬを駆動するフレキシブル有機ＥＬディスプレイの開発を進めています。新規有機トランジスタ構成、作製プロセス等の開発成果および有機トランジスタの新しい応用として、バイオセンサーに関する最近の成果について出展します。　（※pixel per inchの略：1インチあたりの画素数）

４．有機薄膜デバイスコンソーシアム

「有機エレクトロニクス用ITO（スズドープ酸化インジウム）代替透明電極付きフレキシブル基板」の開発成果として、超薄板ガラス及び高機能ステンレス箔を用いた有機EL照明パネル、ITO代替透明導電材料を用いた有機EL照明パネル、印刷による電極パターン形成基板を出展します。

（お問い合わせ）
山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター
電話：０２３８（２９）０５６６

【参考資料】

【参考資料】

有機EL照明の開発

山形大学　有機エレクトロニクスイノベーションセンター　有機ELチーム（硯里）
http://inoel.yz.yamagata-u.ac.jp/suzuri-lab/

１．フィルム基板を用いた100mm角フレキシブル有機EL照明の試作

現状の有機EL照明パネルはガラス製であるため、有機ELが有している「フレキシブル・軽量」な特徴が生かされていません。山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンターでは、今回10cm×10cmのフレキシブルパネルの試作に成功しました（昨年は5cm×5cm）。有機ELには城戸淳二教授が開発した「マルチフォトン技術」が用いられています。

今回公開する技術は中間成果であり、今後更なる大型化を目指します。

２，さくらんぼイルミネーション（＊2013年10月寒河江市技術振興協会にて発表済み）

有機ELの本来の特徴である「フレキシブル」「軽量」「アンブレイカブル」の特徴と、寒河江市の地域性を融合した新しい有機ELイルミネーションを開発しました。風にそよぐさくらんぼのきらめきを有機ELで再現することを開発コンセプトとして、寒河江市技術振興協会、山形大学、東北芸術工科大学の三者の協力体制により開発を進めてきました。山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンターがこれまで研究開発を進めてきたフレキシブル有機EL技術を応用し、寒河江市の特産物であるさくらんぼを表現しました。更に枝部に配置した曲げセンサーにより、揺れ幅に応じてさくらんぼ部の有機ELの明るさ（輝度）を調光します。

この特徴を活かし、東北芸術工科大学・三橋幸次教授が風の流れを感じられるイルミネーション全体をデザインしました。気流により調光される有機ELイルミネーションは世界初です。

枝部に配置した曲げセンサーにより
揺れ幅をセンシングし
有機ELパネルの明るさ（輝度）を調光する

山形大学が開発した
フレキシブル化技術を応用
部材協力：富士フイルム（株）
スーパーハイバリアフィルム

取り付けパネル作製：オーガニックライティング社

この成果はJST地域卓越研究者戦略的結集プログラム「先端有機エレクトロニクス国際研究拠点形成」事業、文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム」事業の支援も一部受けて行われました。

■お問い合わせ

山形大学　有機エレクトロニクスイノベーションセンター　事務室
kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　TEL: 0238-29-0566
准教授　硯里 善幸　（有機EL）　suzuri@yz.yamagata-u.ac.jp

【参考資料】

ROEL 山形大学 有機エレクトロニクス研究センター
INOEL 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター

有機太陽電池の開発

■概要

山形大学有機エレクトロニクス研究センター(ROEL)の材料及び素子構造に関する研究成果を元に、有機エレクトロニクスイノベーションセンター(INOEL)において、県内企業(伊藤電子工業(株))等との共同研究を行い、有機薄膜太陽電池の大面積塗布技術、フレキシブル化技術、擬似透明(半透明)有機太陽電池等の応用研究を進めています。

特に、ROELで有機太陽電池用に開発を進めているスクアリン系色素材料は、可視光長波長域から近赤外域の光を効率よく吸収して電気に変えることが可能な性質を有し、その一方で、可視光中間領域の光を通す透明性があるため、これまで太陽電池が用いられてこなかった住宅の窓やカーポート等、透明かつ発電する部材としての新たな応用展開が期待されます。

■有機太陽電池試作品

擬似透明(半透明)有機太陽電池

超軽量・薄型
フレキシブル有機太陽電池

カードサイズ有機太陽電池

■有機太陽電池の主な特長

■支援プログラム

経済産業省　先端技術実証・評価設備整備費等補助金(技術の橋渡し拠点施設等整備事業)
文部科学省　地域イノベーション戦略支援プログラム
JST 地域卓越研究者戦略的結集プログラム「先端有機エレクトロニクス国際研究拠点形成」
JST 研究成果最適展開支援プログラム(A-Step) など

■お問い合わせ

山形大学　有機エレクトロニクスイノベーションセンター　事務室
kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　TEL: 0238-29-0566
准教授　佐野 健志　(有機太陽電池)　takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp

【参考資料】

ROEL 山形大学 有機エレクトロニクス研究センター
INOEL 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター

有機トランジスタの開発

◎フレキシブル有機ELディスプレイ

紙のように薄く、軽く、曲げることができ、落としても割れないといった特徴を持つフレキシブルディスプレイを有機トランジスタと有機ELで実現する開発を進めています。特に有機ELを駆動するための有機トランジスタアレイで構成されるバックプレーンを全塗布プロセスで作製することを目指しています。今回はその中間成果として、電極以外を塗布プロセスで形成した新規なバックプレーンを開発し、有機ELディスプレイを駆動することに成功しました。

■成果

1）塗布型有機半導体のパターニング法開発
- 高性能塗布型有機半導体採用
- 親液性/撥液性を利用したバンク構造
- 100ppiの高精細に対応
- スピンコート法に比べて材料ロスが少ない塗布
- 特許：1件

2）新規ポリマーゲート絶縁膜（新日鉄住金化学との共同開発）
- 150℃での低温形成が可能
- 耐プロセス性に優れる
- 高平坦性　Rq＜0．5nm
- 高安定性（DCバイアスストレスによる特性変化が小さい）
- ヒステリシスフリー
- 特許：2件

■将来展開

今後は、印刷法により電極を形成することで全塗布によるバックプレーンの実現を目指します。本技術はフレキシブルディスプレイだけでなく大面積、低コスト化を視野に入れたプリンテッドエレクトロニクス産業に大いに貢献できる技術として期待されます。

■支援プログラム

- 本開発は以下の補助金を使用した成果です。
  ①文部科学省　地域イノベーション戦略支援プログラム
  ②JST　地域卓越研究者戦略的結集プログラム

■お問い合わせ

山形大学　有機エレクトロニクスイノベーションセンター　事務室
kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　TEL: 0238-29-0566
准教授　水上 誠　（有機トランジスタ）　m_mizukami@yz.yamagata-u.ac.jp

フレキシブル有機ELディスプレイ構造

バイアスストレス試験

塗布型有機半導体の素子分割

試作したバックプレーン

100ppi 解像度での文字表示

【参考資料】

ROEL 山形大学 有機エレクトロニクス研究センター
INOEL 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター

有機トランジスタの開発

◎バイオセンサー

今回、有機トランジスタのヘルスケアへの応用として、人の体に違和感なく馴染み、装着の負担の少ないバイオセンサー用超薄型有機トランジスタおよび伸縮性有機トランジスタの印刷法による作製技術の開発に世界で初めて成功致しました。

超薄型有機トランジスタは、厚さ～1μmのフレキシブル基板上に、NAND、インバータなどの論理回路を印刷法により作製し、それぞれの動作を確認致しました。(下図)伸縮性有機トランジスタも同様に印刷法により作製したもので約50%伸縮でき、伸縮の前後でも同一の回路特性を示すことを実証致しまた。

試作した超薄型有機
トランジスタの外観写真

回路パターン
(擬CMOS NAND)の写真

動作特性

■支援プログラム

・本開発は以下の補助金を使用した成果です。
①文部科学省　地域イノベーション戦略支援プログラム
②JST　地域卓越研究者戦略的結集プログラム

■お問い合わせ

山形大学　有機エレクトロニクス研究センター
助教　福田 憲二郎　　fukuda@yz.yamagata-u.ac.jp

【参考資料】

山形大学　有機薄膜デバイスコンソーシアム

http://inoel.yz.yamagata-u.ac.jp/F-consortium/

ROEL 山形大学 有機エレクトロニクス研究センター
INOEL 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター

山形大学有機薄膜デバイスコンソーシアムについて

■コンソーシアム概要

山形大学有機薄膜デバイスコンソーシアムは、経済産業省委託事業「産学連携イノベーション促進事業」に採択された「山形大学有機デバイス産学コンソーシアム形成事業」における共同研究コンソーシアムの一つとして活動しております。

本コンソーシアムは、有機エレクトロニクス分野での新たな事業創出及び東北震災復興への貢献をめざし、参加企業と山形大学との連携を核に、「有機エレクトロニクス用 ITO 代替透明電極付きフレキシブル基板の実用化開発」を推進して参ります。

■開発テーマと主な研究開発内容

「有機エレクトロニクス用 ITO 代替透明電極付きフレキシブル基板の実用化開発」

- 有機 EL、有機太陽電池、有機 TFT 等の有機エレクトロニクスデバイスに適用できるフレキシブル基板の開発
- 従来の一般的な透明電極である ITO に替わる透明電極の開発とフレキシブル基板への適用
- ロール to ロール生産要素技術の開発

■研究開発期間

開発期間：2013年4月～2016年3月（3年間）

■参加企業（2014 年 1 月現在；18社）

AZ エレクトロニックマテリアルズマニュファクチャリング株式会社
NEC ライティング株式会社
株式会社 カネカ
株式会社 神戸製鋼所
株式会社 小森マシナリー
JNC 株式会社/JNC 石油化学株式会社
信越化学工業株式会社
新日鐵住金株式会社/新日鉄住金マテリアルズ株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社 太陽機械製作所
DIC 株式会社
帝人株式会社/帝人デュポンフィルム株式会社
デクセリアルス株式会社
東海商事株式会社
日本ゼオン株式会社
日本電気硝子株式会社
株式会社 FEBACS
三菱マテリアル株式会社

プリンタブルエレクトロニクス展にて公開する中間成果について

■超薄板ガラス及び高機能ステンレス箔を用いた有機 EL 照明パネル

有機エレクトロニクスデバイスに用いられる基板としては、ガラス基板が一般的に用いられていますが、ガラス基板はフレキシブル化には適しません。

本コンソーシアムでは、今回、フレキシブル有機エレクトロニクスデバイスに適したフレキシブル基板として、日本電気硝子株式会社製の厚さ 50μm の超薄板ガラス、及び新日鐵住金グループ製の厚さ 50μm の高機能ステンレス箔を用いて、基板サイズ 9.2cm 角のフレキシブルな白色有機 EL 照明パネルの作製に成功致しました。パネル作製は NEC ライティング株式会社が担当致しました。

今後、ITO 代替透明電極の適用など、実用化に向けた技術開発を推進して参ります。

■ITO 代替透明導電材料を用いた有機 EL 照明パネル

ITO(Indium Tin Oxide)は液晶、有機エレクトロニクスデバイスなどでもっとも一般的に用いられる透明電極ですが、コスト、資源などの点で課題を抱えております。

本コンソーシアムにおきましては、金属補助配線(フォトリソグラフィ法でパターン形成)と塗布型の透明導電材料(スピンコート法で膜形成)を組み合わせることにより、ITO を用いない有機 EL パネル(通常のガラス基板使用/基板サイズ 5.0cm 角)の作製に成功致しました。パネル作製は山形大学が担当致しました。

今後、補助配線及び透明導電材料をフレキシブル基板上に印刷形成する技術開発などに取り組んで参ります。

■印刷による電極パターン形成基板

本コンソーシアムにおきましては、有機エレクトロニクスデバイス作製における生産革新をめざし、従来のフォトリソグラフィープロセスに替わる印刷技術の開発を行っております。

今回、山形大学、大日本印刷株式会社、DIC 株式会社、株式会社小森マシナリー、株式会社太陽機械製作所、東海商事株式会社が中心となって、補助配線パターン及び絶縁膜パターンを適切な位置合わせ精度で基板上に印刷形成することに成功致しました。

今後、今回開発した技術をベースに、さらに ITO 代替透明導電膜を印刷形成する技術開発などに取り組んで参ります。

■お問い合わせ

山形大学　有機エレクトロニクスイノベーションセンター　事務室

kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　TEL: 0238-29-0566

産学連携教授　向殿　充浩(プロジェクト長)　koden@yz.yamagata-u.ac.jp

産学連携教授　仲田　仁　(技術統括)　nakada@yz.yamagata-u.ac.jp

プレス発表資料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成26年１月23日
山　形　大　学

平成２５年度山形大学卒業制作展を開催します

地域教育文化学部　造形芸術コースの学生の卒業制作展「山形展」と「サテライト展」を開催します。

◇山形展

開催日時：２月５日(水)～２月９日(日)
10：00～17：00(最終日は15：00まで)

会　　場：山形美術館　２階第３展示室
(山形市大手町1－63)　入場無料

※２月８日(土)13：00から同会場にてギャラリートークを行います。

◇サテライト展（愛媛大学との合同展覧会）

開催日時：２月２８日(金)～３月５日(水)
9：00～17：45
(初日は15：00から/最終日は13：00まで)

会　　場：キャンパス・イノベーションセンター
(東京都港区芝浦3-3-6　山形大学東京サテライト)　入場無料

◆趣　旨

造形芸術コースは、絵画、デザイン、工芸、彫刻等、様々な分野から、個人の研究したい内容にあわせて研究室に入り、試行錯誤を繰り返し、作品を制作しています。

個人の研究内容や分野が異なるからこそ、違った視点からも意見を聞くことができ、それが私たちの強みであると感じています。そのため互いの研究、作品を見聞きする機会を設け、刺激し合うことで切磋琢磨してきました。また、仲間や作品に思いを込めて、真摯に向き合いその分野について深く追求することを共通意識として取り組んできました。

大学生活の集大成としての卒展を経て、今後それぞれが歩む道に生かしていこうと考えています。各々の研究の成果を、作品を通して地域の方や来場された皆様に伝える事ができれば幸いです。

（お問合せ先）
［山形大学総務部広報室］
電話：０２３－６２８－４００８
［学生広報担当　伊藤千賀］
E-mail ： bibibi13en@yahoo.co.jp

山形大学
卒展
地域教育文化学部　文化創造学科　造形芸術コース　卒業制作展

山形大学

卒展

地域教育文化学部　文化創造学科
造形芸術コース　卒業制作展

2014年 2月5日(水)～2月9日(日)
山形美術館 2階第3展示室 入場無料

10：00～17：00（最終日15：00まで）

ギャラリートーク　2月8日(土)13：00～(2階第3展示室)

山形美術館

【住所】〒990-0046　山形県山形市大手町1-63

TEL：023-622-3090

FAX：023-622-3145

【徒歩】JR山形駅（東口）から徒歩15分

【バス】山形駅前から

①「天童（荒谷経由）」行き・「山寺」行きで約5分、美術館前下車徒歩3分

②中心街「100円循環バス」(10分おきに運行)で約10分、霞城公園（教育会館）前下車徒歩4分

【車】山形自動車道山形蔵王ICから約15分

※山形美術館北側に無料駐車場あり、美術館前の山形市大手町駐車場は有料

MAP

山形大学×愛媛大学合同東京展も開催！

MAP

愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コース／山形大学地域教育文化学部文化創造学科造形芸術コース／山形大学大学院地域教育文化学科研究科文化創造専攻造形芸術分野

第4回卒業・修了合同美術展覧会

2014年2月28日(金)～3月5日(水)　入場無料

9：00～17：45(初日15：00～／最終日13：00まで)

会場：キャンパス・イノベーションセンター

アクセス：〒108-0023　東京都港区芝浦3-3-6

TEL／FAX：03-5440-9071(山形大学東京サテライト)

JR山手線・京浜東北線　田町駅下車　芝浦口より徒歩1分

都営地下鉄三田線・浅草線　三田駅下車　徒歩5分

山形大学　大学院　地域教育文化研究科　文化創造専攻　造形芸術分野

山形大学大学院の修了展はこちら！

修了研究・制作展2014 "IN PRESS"

2014年2月5日(水)～2月9日(日) 9：00～21：00 (最終日12：00まで)

会場:観光文化交流センター　山形まなび館(交流ルーム5・9)　入場無料

修了研究発表会：

2014年2月8日(土) 10：30～12：00

お問い合わせ：090-5845-0285（鈴木）

〒990-8560　山形県山形市小白川町1-4-12　山形大学　地域教育文化学部　文化創造学科　造形芸術コース

【E-mail】bibibi13en@yahoo.co.jp　【ホームページ】http://6zokei.wix.com/yamadaizoukei

【ブログ】http://yamadaisotsuten06.blog.fc2.com/【Twitter】@Yamadai_Zokei

詳しい情報はこちら！→

プ レ ス 発 表 資 料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成２６年１月２３日
山　形　大　学

人文学部国際学術講演会を開催します！

高校生・大学生・一般市民を対象とした、人文学部国際学術講演会「共振する東アジア３　サブカルチャーからみる日本と台湾の戦後」を開催します。
参加費は無料です。是非ご参加ください！

開催趣旨

ARASHI、『One Piece』、宮崎アニメ…。日本のサブカルチャーが世界中にブームを巻き起こしている今、台湾における日本ブームの展開がどのように過去の植民地経験や歴史記憶と絡み合っているのか。台湾と日本の文化的な相互浸透の現実は如何なるものなのか。本講演会では、演歌の変遷、漫画の流通、映画表象をテーマに、日本と台湾に共通する歴史認識、および台湾における日本のサブカルチャーの受容を考えていきます。

日　　時：2014年2月23日（日）１３：００－１７：１０

会　　場：山形大学小白川キャンパス　基盤教育1号館112教室

対　　象：高校生・大学生・一般市民

参 加 費：無料

使用言語：日本語

※申込は不要です。詳細は別添チラシをご覧下さい。

（お問合せ先）
人文学部人間文化学科・講師　許　時嘉
電話：023-628-4293
Mail: hsu@human.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学
Yamagata University

山形大学人文学部国際学術講演会

共振する東アジア3

サブカルチャーからみる日本と台湾の戦後

2014.2.23 日

午後1:00〜午後5:10

[会場]山形大学小白川キャンパス
基盤教育院1号館 112教室

[対象]高校生・大学生・一般市民

[参加費]無料

[使用言語]日本語

台湾で流された股旅演歌 ―1960年代台湾における出稼ぎ現象
講演者：中央研究院台湾史研究所 副研究員 陳 培 豊
コメンテーター：山形大学人文学部 准教授 森岡 卓司

戦後台湾における漫画検閲制度と日本漫画のアンダーグラウンド的展開
講演者：政治大学大学院台湾史研究所 副教授 李 衣 雲
コメンテーター：山形大学人文学部 教授 中村 唯史

台湾映画『セデック・バレ』にみる再現の不可能性と可能性
講演者：日本大学文理学部 教授 三澤真美恵
コメンテーター：山形大学人文学部 講師 大久保清朗

ラウンドテーブル企画 **「グローバル化と『哈日(ハーリー)ブーム』**
―台湾のポストコロニアル的社会の過去・現在・未来」
対談：陳培豊×李衣雲×三澤真美恵
司会・問題提起：山形大学人文学部 講師 許 時 嘉

詳しくはチラシ裏面をご覧下さい

戦前から戦後まで
日本と台湾をつなぐサブカルチャー

ARASHI、『One Piece』、宮崎アニメ…。日本のサブカルチャーが世界中にブームを巻き起こしている今、台湾における日本ブームの展開がどのように過去の植民地経験や歴史記憶と絡み合っているのか。台湾と日本の文化的な相互浸透の現実は如何なるものなのか。本講演会は演歌の変遷、漫画の流通、映画表象をテーマに、日本と台湾に共通する歴史記憶、および台湾における日本のサブカルチャーの受容を考えてみたい。

台湾で流された股旅演歌 ―1960年代台湾における出稼ぎ現象

中央研究院台湾史研究所　副研究員　**陳　培　豊**

日本の植民地支配、そして中国国民党による独裁統治を経験した1960年代の台湾は、いかなる理由で、またどのような社会的背景、要求のもとで、股旅演歌をカバーしたのであろうか。そうした行為は何を媒質として行なわれ、いかなる結果を生み出したのだろうか。本報告はこうした関心に基づく一考察である。

戦後台湾における漫画検閲制度と日本漫画のアンダーグラウンド的展開

政治大学大学院台湾史研究所　副教授　**李　衣　雲**

戦後、連合国軍の指令により台湾を接収した国民党政府は、1946年より日本語の使用や日本文化を禁止にした。しかし、この様な状態に置かれながらも、日本漫画は台湾において強大な経済力を生み出し、漫画の文化的位置さえ構築した。本報告はこの一連の発展過程を分析する。

台湾映画『セデック・バレ』にみる再現の不可能性と可能性

日本大学文理学部　教授　**三澤真美恵**

歴史を映画として再現すること、消えた言語を再現すること、言語を音声として再現すること、それをふたたび別の言語で字幕として再現すること、本報告では『セデック・バレ』字幕翻訳監修の体験を通じて、映画における再現の不可能性と可能性について考えてみたい。

ラウンドテーブル　グローバル化と『哈日（ハーリー）ブーム』
―台湾のポストコロニアル的社会の過去・現在・未来

対談：**陳培豊×李衣雲×三澤真美恵**　司会・問題提起：**許時嘉**

日本のサブカルチャーが世界に無差別に広がっている時代になった。ところが、台湾では、90年代から日本のアニメ、J-POP、ドラマが普及し始める一方、過去の植民地経験と重なって色眼鏡で見られてきた。台湾の「哈日ブーム」は、現在のグローバル化の中でどのように捉えるべきなのか。本対談は、「哈日」のグローバル化をテーマにして台湾における日本表象と文化受容の過去、現在、そして未来を考えてみたい。

スケジュール

2月23日（日）13：00　開会挨拶

13：05～13：55　陳培豊（コメンテーター：森岡卓司）
～5分休憩～
14：00～14：50　李衣雲（コメンテーター：中村唯史）
～5分休憩～
14：55～15：45　三澤真美恵（コメンテーター：大久保清朗）
～15分休憩～
16：00～17：00　ラウンドテーブル（陳培豊×李衣雲×三澤真美恵×許時嘉）
17：00～17：10　閉会挨拶

プレス発表資料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成26年1月23日
山　形　大　学

電荷密度波系で起こる磁場誘起相転移現象の機構解明に成功

山形大学理学部量子物性研究室は、中国強磁場研究所で行った強磁場実験結果の数値計算を行い、磁場誘起相転移現象の機構解明に成功しました。

◎背景

◇理学部物理学科量子物性研究室（佐々木実教授、大西彰正教授、北浦守准教授）では、トポロジカル絶縁体であるBi_2Te_3表面に存在する2次元Dirac電子の特異な振舞いを解明し、その研究成果をPhysical Review B誌に発表しています。

◇昨年、量子物性研究室が中核となり、韓国のDaegu大学とPohang工科大学・中国国立Wuhan強磁場研究所（WNHMFC）との共同研究で、磁性トポロジカル絶縁体$Fe_xBi_2Te_3$（ドープしたFe濃度は最大10 %）系および３次元Dirac電子系における研究成果が、物理学分野では極めて評価の高いPhysical Review Letters (PRL)誌に相次いで掲載されました。

◇一連の共同研究では、大学間交流協定校のDaegu大学の金教授の功績が極めて大であり、Daegu大学との交流は、学生の交流にとどまらず、研究交流も活発になってきたと言えます。

◎研究の概要

◇このたび、中国国立Wuhan強磁場研究所の依頼を受け、研究所で行った強磁場実験結果の数値計算を山形大学で行い、その成果がPhysical Review B（PRB）誌に掲載可となりました。

◇ Wuhan強磁場研究所では、磁場誘起相転移現象を見出していたものの、その機構が不明でした。そこで、私たちが実験結果の数値計算に挑み、実験結果の理論的証明に見事に成功しました。この数値計算結果がなければ、PRB誌には掲載されなかったと思われ、論文おける私たちの貢献度は大です。

（お問い合わせ）
山形大学理学部物理学科 教授 佐々木 実
TEL：023-628-4564

山形大学

電荷密度波系で起こる磁場誘起相転移現象の機構解明に成功

中国Wuhan強磁場研究所

山形大学理学部量子物性研究室

韓国Daegu大学

研究成果について

- 山形大学・中国Wuhan強磁場研究所・韓国Daegu大学およびPohang工科大学の共同研究の成果です。
- Wuhan強磁場研究所で、電荷密度波物質であるKMo_6O_{17}の磁場中抵抗率（図１の上）とホール効果（図１の下）を測定し、図１に示すように、いずれの測定結果にも矢印の磁場で磁場誘起相転移があるという結果を得ました。
- この結果に対して、私たちは、理論に基づく数値計算に挑戦し、見事実験結果の再現に成功しました（図２の黒線が実験結果で赤線が計算結果）。ここでは、一例として、1.3 Kの結果についてのみ示していますが、全ての温度での結果の再現に成功しています。

図１ 磁場誘起相転移現象

図２ 数値計算結果

提唱した機構

- 詳細は省きますが、特定の磁場（相転移を起こす誘起磁場）で電荷密度波状態が急激に変化する（部分的に壊れる）機構です。
- そのような磁場誘起相転移は、図１の赤線の磁場まで何段階か起こります。
- その磁場より強い磁場で量子振動現象が現れます（図１の下図に明瞭に見えます）が、提唱した機構に基づくと、それもうまく説明できます。

研究の意義

- Physical Review B (PRB) 誌は物理分野ではレベルの高い欧文誌です。
- 私たち量子物性研究室は、年間２報の論文をPRLに掲載し、山形大学および理学部に大いに貢献しています。
- それに引き続き、私たち量子物性研究室の成果がPRBに掲載可となりました（そのタイトル等が下記です）。このように、量子物性研究室は、山形大学および理学部に貢献し続けています
- 共同研究成果は、Wuhan強磁場研究所の発展に大いに貢献しました。

Magnetic-field-induced transitions and evolution of magnetotransport properties in quasi-two-dimensional KMo_6O_{17} in the charge-density-wave phase

J.-F. Wang[1,*], M. Yang[1], L. Li[1], M. Sasaki[2], A. Ohnishi[2], M. Kitaura[2], K.-S. Kim[3], and Heon-Jung Kim[4,†]

[1]Wuhan National High Magnetic Field Center (WHMFC), Huazhong University of Science and Technology, Wuhan 430074, China
[2] Department of Physics, Faculty of Science, Yamagata University, Kojirakawa, Yamagata 990-8560, Japan
[3]Department of Physics, Pohang University of Science and Technology (POSTECH), Pohang, Gyeongbuk 790-784, Republic of Korea
[4]Department of Physics, College of Natural Science, Daegu University, Gyeongbuk 712-714, Republic of Korea

私たち研究室は、支援して下さっている山形大学・理学部・岩田高広教授・富田憲一教授に大変感謝しています。
また、佐々木実は、いろいろな意味でよきライバルである衛藤稔准教授にも感謝しています。

プレス発表資料

平成26年 1月23日
山　形　大　学

純米大吟醸酒「山形大学 燦樹（きらめき）2014」発売！

山形大学オリジナル純米大吟醸酒『山形大学 燦樹（きらめき）２０１４』を２月３日（月）から販売します。

１．純米大吟醸酒「山形大学 燦樹（きらめき）2014」

２月３日(月)から、生酒及び熱処理した火入酒の２種類の同時販売を開始します。

帰省や出張の際のお土産品として、本学学生及び教職員はもとより、地域の方々にもご利用いただき、山形大学の好感度アップにつなげたいと考えています。

２．原料米は附属農場産出羽燦々１００％ 使用

原料米には、農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で栽培された酒造好適米「出羽燦々」を１００％使用しています。

山形大学 燦樹（きらめき）2011より、特別栽培の認証を受け慣行より５０％以下の農薬・化学肥料で栽培しています。

醸造は、昨年と同じ庄内町余目の鯉川酒造に依頼しました。

※参考： 2007・2008：鶴岡市羽黒　竹の露合資会社
2009・2010：鶴岡市大山　株式会社渡會本店
2011～2014：庄内町余目　鯉川酒造株式会社

３．販売数量・価格等

醸造本数は、７２０ml瓶で生酒を６５０本、熱処理した火入酒を１，１００本の合計１，７５０本程度となる見通しです。

価格は、７２０ml瓶入り生酒及び火入酒共に１本１，７００円（平成26年3月までの価格）で、小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生協の店舗のほか、同組合のホームページからも購入することができます。

４．売上の一部は学生への支援として活用

今年は、約２９０万円分の販売が予定され、完売した場合には約２０万円が「山形大学学生支援基金」に寄付され、学生への支援として活用されます。

（お問い合わせ）
山形大学農学部企画広報室
電話：０２３５（２８）２８０３
山形大学生活協同組合 理事会室
電話：０２３（６４１）４３８０

プレス発表資料

山形大学
YAMAGATA UNIVERSITY

平成２６年１月２３日
山　形　大　学

山形大学がIdP of the year 2013を受賞

１月１４日（火）開催の「**学認シンポジウム/JICS**」において，80以上の教育機関から本学が選ばれ，学認*から「IdP of the Year 2013」が贈られました。
本学のクラウド認証連携基盤は，8月9日より米国OIXの第1保証レベルの識別子に対応した運用を開始，教育・研究用外部サービスの信頼性の向上を目指し，技術および運用面で改善を行っています。

◆概要

受賞日　：２０１４年１月１４日
受賞者　：山形大学 IdP運用責任者　吉田　浩司
受賞理由：Open Identity Exchange(OIX)の第1保証レベル（Level of Assurance 1）取得第１号であること(2013年8月1日取得)。
具体的な審査プロセスのワークフローを明確化できたこと

国立情報研究所(NII)では，大学等がその構成員向けに発行するオンラインIDを学外の様々なサービスにも利用するための認証連携基盤である学術認証フェデレーション「学認」を運用しています。
山形大学では，教育・研究環境の改善の一環として，**クラウド認証連携システム**を導入し、学認やGoogleなど提供する学外にある様々なクラウドサービスを**シングルサインオン**で利用可能にしています。
LoA1審査のポイントは、オンラインIDの発行とパスワードの管理。既にLoA1を取得しているGoogleなどと比較すると，教育機関ではオンラインIDの失効も行っているので，LoA1の取得は容易でありLoA2に近い信頼性を有しているといえます。このLoA1認定は，教育用コンピュータ環境整備の１つであり，今後も最新のIT環境整備を目指して、様々な改善を進めていきます。
本学のクラウド認証連携システムの構築は，平成22年度国立大学法人設備整備費補助金事業の補助によって実施されました。

＜用語説明＞

***学認**…「学術認証フェデレーション」の略で、学術e-リソースを利用する大学、学術e-リソースを提供する機関・出版社等から構成された連合体。

（お問合せ先）
小白川地区情報ネットワークセンター　023-628-4209

◆参考資料

・OIX の記事
http://openidentityexchange.org/certified-providers

・学術認証フェデレーション　（学認：GakuNin）
https://www.gakunin.jp/

・学認　OIX LoA 1 認定プログラム
https://www.gakunin.jp/jo0igwggg-308/#_308

・山形大学　学術認証フェデレーション実証試験　技術資料
https://upki.yamagata-u.ac.jp/fed/

・クラウド認証連携システム
複数 ISP と分散データベースによる高可用性認証連携サービスの構築，伊藤智博，高野勝美，田島靖久，吉田浩司，*大学情報システム環境研究*，**15**，72-79（2012）.

プレス通知資料（概 要）

平成２６年１月２３日
山　　形　　大　　学

※　詳細は別添の資料をご覧ください。

１．理学部物理学科主催で「フロンティア物理講演会」を開催

「物理学」とは、素粒子から宇宙まで、大きさ、エネルギースケールの異なる自然界を、統一的に理解しようと挑戦する学問です。今回の３回の講演会では、それぞれの大きさ(エネルギースケール)において、世界の最前線で活躍されている研究者を講師にお招きし、最新の研究内容についてお話していただきます。本講演会を通して、エネルギースケールの異なる階層を跨る、より普遍的な物理法則を追求するうえで参考となるような情報の交換をしていきたいと考えています。

◆第１回目：１月３０日（木）１３：００～１７：３０
物性物理学関係の講演

◆第２回目：２月１４日（金）１３：００～１５：３０
宇宙理学関係の講演で、講演後に座談会を予定

◆第３回目：３月　３日（月）１０：３０～１３：００
素粒子物理学関係、昨年ノーベル物理学賞をとったヒッグス粒子に関する講演

※場所は、いずれも**山形大学理学部先端科学実験棟４階Ｓ４０１大講義室**

※一般の方も大歓迎。ただし、最先端科学の研究に関する講演会であり、内容をご理解いただくためには、大学３年生程度以上の専門知識が必要。

※参加費無料・事前申し込み不要

２．「科学で東北を盛り上げ隊！＠石巻」を開催

「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト※」(山形大学)では、文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として「科学で東北を盛り上げ隊！＠石巻」(６回目)を開催します。

◆開催日時：２月９日（日）　１０：００ ～１５：００

◆開催場所：**「こもれびの降る丘　遊楽館」**（宮城県石巻市北村字前山 15-1）

◆参加団体：山形県立博物館、仙台市科学館、NPO 法人ガリレオ工房、サイエンス＆テクノロジーfor All、NPO 法人コアネット、サイエンススタジオ・マリー、東京学芸大学附属高等学校、東北大学大学院理学研究科ほか

◆参 加 費：無　料(遊べる学べるイベントがいろいろあり、どなたでも参加できます。)

※「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト」
独立行政法人科学技術振興機構（JST）の支援により、山形県、県内関係機関とともに地域の科学舎推進事業「地域ネットワーク支援」として「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト」を平成 21 年度から３年間行い、平成 24 年度からは、大学や県などで継続して事業を進めているプロジェクト。

３．大学コンソーシアムやまがた『やまがた夜話』の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、「もう一つの人づくり」を実現するため、「山形県の人・モノ・地域作り」をテーマにそれぞれの得意分野で活躍している第一人者の目線で皆さまにわかりやすくお話しする講話「やまがた夜話」を開催しています。

２月は、「子どもと一緒に科学しよう！大人のための科学実験講座―ホームメイド・サイエンス―」をテーマに３回シリーズで開催します。

◆日　時：２月１２日「おいしいを科学しよう！台所実験室」
　　２月１９日「どくと～るMINの実験夜話～身の回りにある素材を利用した実験～」
　　２月２６日「子どもが自力でできる実験工作の工夫」
　　※全回　水曜日　１８：３０～１９：３０

◆場　所：ゆうキャンパス・ステーション（山形市：山形むらきさわビル１階）

◆対　象：高校生・学生・一般市民　　定員５０名（参加費は無料）

４．モンテディオ山形杯　雪中棚田サッカー大会 in 大蕨の開催

雪中、棚田の中でのサッカーを通して、モンテディオ山形のホームタウン住民とチームとのより深い交流を推進するために、大学コンソーシアムやまがた、山辺町中地区有志の会の主催で「モンテディオ山形杯　雪中棚田サッカー大会 in 大蕨」を開催します。

「棚田での雪中サッカー」という新たなサッカーの楽しみ方を体験してもらい、モンテディオ山形を起点とした元気な地域づくりに貢献します。

◆日　時：**２月２３日（日）８：３０－１３：３０**

◆会　場：山辺町大蕨の棚田

◆参加費：1チーム3,000円（昼食時に提供する「わらび汁」代等含む。）

◆参加対象：中学生以上、先着６チーム
　（６人でエントリーし、試合は５人が出場する。５人のうち１人はゴールキーパー。）

◆試合形式：フットサルに準じた特別ルールを採用、6分ハーフ制

◆参加申し込み：参加者全員の①名前②年齢③性別④代表者の電話番号⑤チーム名⑥チームのプロフィールを、ＦＡＸまたはメールで申込先までお送りください。

※　これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

◎平成２５年度社会人力育成山形講座　成果報告フォーラム－山形における人材育成－

平成２４年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択された「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」事業の成果報告として、「平成２５年度社会人力育成山形講座成果報告フォーラム－山形における人材育成－」を開催します。

◆日　時：**２月８日（土）１３：３０～１６：３０**

◆内　容：**第１部　平成２５年度社会人力育成山形講座成果報告**
　　第２部　パネルディスカッション　　テーマ「山形における人材育成」

◆対　象：教育、企業、行政関係および地域のみなさま

◆参加費：無料（定員５０名）

Particle Data Group, LBNL, © 2008. Supported by DOE and NSF

フロンティア物理講演会 in 山形

日時 2014年1月30日(木)
13:00～17:30

「低エネルギープラズマロン状態のGW解析:有機導体および遷移金属酸化物への応用」 中村 和磨(九州工業大学大学院 工学府)
「重い電子系の局在から非局在に至る電子構造」 木村 真一(大阪大学大学院 理学研究科)
「鉄系超伝導体、強相関物質の放射光ARPES」 吉田 鉄平(京都大学大学院 人間・環境学研究科)
「曲面が関わる量子物性～現代幾何学と物性科学との新たな融合領域への展開～」 尾上 順(東京工業大学大学院 理工学研究科)

日時 2014年2月14日(金)
13:00～15:30

「超新星で拓く極限物理」 諏訪 雄大(京都大学基礎物理学研究所)
「超新星が残す不思議な星々」 榎戸 輝揚(理化学研究所・NASA/GSFC)

座談会 理系の研究と宇宙にまつわる座談会

日時 2014年3月3日(月)
10:30～13:00

「世紀の大発見!! ヒッグス粒子って何だろう?」 丸 信人(大阪市立大学大学院 理学研究科)
「世界最高エネルギーの加速器LHCによるヒッグス粒子の発見」 隅田 土詞(京都大学大学院 理学研究科)

会場 理学部先端科学実験棟4階 S401 全日程同じ会場で行います。

お問い合わせ 〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 山形大学理学部 担当:大津 Tel.023-628-4759 Fax.023-628-4567

＼こどもも大人も親子で楽しめるイベントがたくさんあります。／

科学で東北を盛り上げ隊！＠石巻

体験コーナー

大会議室

- 変形菌（粘菌）の広場
- シュワシュワ発泡入浴剤を作ろう
- タケコプターを作って遊ぼう！
  ※タケコプターを付ける帽子をご持参ください。
- ワクワクおもしろ実験
  ～くるくるおもちゃ！つくって楽しもう！
- 光通信の科学！
- 数学パズル／手のひらプロジェクタ
- 大陸は動いている！？／スイングバイ
- 栞つくり－花のしおり　葉っぱのしおり－
- 全反射カード
- スライムを作ろう！／太陽コピー

多目的室

- 化石レプリカづくり
- 記録に挑戦！ベレムナイト飛行機コンテスト
- 光・音・宇宙をテーマにした３つのワークショップ

オープンワークショップ

- クラゲの展示／蔵王・月山の展示

視聴覚コーナー

サイエンスショー＆トークショー

10：30～11：00	不思議！二酸化炭素と低温の科学
11：00～11：30	実に面白いサイエンスクイズ
11：30～12：00	ワクワク化学マジッククイズショー
13：00～14：00	私たちの未来と科学技術（トークショー）
14：00～15：00	キュリー夫人の理科教室

参加無料

遊べる学べるイベントいろいろ！！

どなたでも参加できます！

日時　平成26年2月9日（日）
10:00～15:00

場所　こもれびの降る丘　遊楽館
（宮城県石巻市北村字前山15－1）

※　小さなお子様は保護者同伴でお願いします。

◎主催　やまがた『科学の花咲く』プロジェクト（山形大学）
文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

◎共催　山形県立博物館、仙台市科学館、ガリレオ工房、サイエンス＆テクノロジーfor All、コアネット
サイエンススタジオ・マリー、東京学芸大学附属高等学校、東北大学大学院理学研究科

◎後援　石巻市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会、河北新報社、鶴岡市立加茂水族館
東京応化科学技術振興財団、日新製薬(株)、水澤化学工業(株)、田宮印刷(株)

やまがた夜話

テーマ　子どもと一緒に科学しよう！
大人のための科学実験講座
－ホームメイド・サイエンス－

2月12日（水）
18:30～19:30
「おいしいを科学しよう！台所実験室」
高品　善　氏（山形県商工労働観光部科学技術振興主査／サイエンスナビゲーター）
内容：自然科学を体感していただきます。少し試飲、試食あり！

2月19日（水）
18:30～19:30
「どくと～る　MINの実験夜話
～身の回りにある素材を利用した実験～」
石井　実　氏（山形大学地域教育文化学部教授／サイエンスナビゲーター）
内容：おもしろ化楽(かがく)実験をお楽しみいただきます。

2月26日（水）
18:30～19:30
「子どもが自力でできる実験工作の工夫」
有路　宏司　氏（元・公立小中学校教員／サイエンスナビゲーター）
内容：皆さんと実験や工作をします！
※26日の講座を受講される方はハサミとホチキスをご持参ください。

会　場　ゆうキャンパス・ステーション（山形むらきさわビル1階）

対　象　高校生・学生・一般市民
定員：50名
入場無料

アクセス　山形駅東口より徒歩1分

お申し込み　電話又はチラシ裏面の参加申込書に必要事項を記入の上Fax、郵送、メール等でお申し込みください。

主　催
後　援
大学コンソーシアムやまがた
山形市

大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ
〒990－0039　山形市香澄町1－3－15　山形むらきさわビル1階
TEL：023-628-4842　FAX:023-628-4820
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

FAX：023-628-4820
大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日：それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 ☐ 平成２６年 ２月 １２日（水） 講師： 高品 善 氏 ☐ 平成２６年 ２月 １９日（水） 講師： 石井 実 氏 ☐ 平成２６年 ２月 ２６日（水） 講師： 有路 宏司 氏
住 所	〒
氏 名	
連絡先	TEL
	E-mail
所 属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990－0039 山形市香澄町1－3－15 山形むらきさわビル1階

TEL:023－628－4842 FAX:023－628－4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

モンテディオ山形杯
雪中棚田サッカー大会in大蕨

参加チーム大募集!!

優勝チームには棚田米1俵（60kg）贈呈!!

2014
2/23 SUN

山辺町大蕨の棚田
8：30～13：30

■スケジュール

8:30	受付
8:45	開会式
9:00	ウォーミングアップ
9:30	予選リーグ（6試合）
11:45	決勝・3位決定戦
12:10	閉会式
12:30	昼食会
13:30	解散

■参加費：1チーム3，000円
■対　象：中学生以上
■募集チーム数：先着6チーム
■参加賞：各チームに舞米豚

申込み締切
2月13日（木）
16:00まで

主　催：大学コンソーシアムやまがた、中地区有志の会　共　催：山辺町
協　力：公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会、グループ農夫の会

詳細は裏面へ→

モンテディオ山形杯　雪中棚田サッカー大会 in 大蕨
参加者募集

1．目的
「モンテ棚田米発祥の地」である山辺町大蕨の棚田の中でサッカーを行うことを通して、モンテディオ山形のチームとサポーター、サッカーファンそしてモンテディオ山形のホームタウン住民が交流を深める場を創出するとともに、「棚田での雪中サッカー」という新たなサッカーの楽しみ方を体験してもらうことで、モンテディオ山形を起点とした元気な地域づくりに貢献します。

2．日時
平成26年2月23日（日）8:30－13:30

3．会場
山辺町大蕨の棚田
【駐車場等については、当日、中支所・中公民館付近（〒990-0341山辺町大字大蕨1173）からスタッフが御案内いたします。】

4．主催・共催・協力
主　催：大学コンソーシアムやまがた、中地区有志の会
共　催：山辺町
協　力：公益社団法人 山形県スポーツ振興21世紀協会、グループ農夫の会

5．参加費（昼食時に提供する「わらび汁」代等含む。）
1チーム 3,000円

6．参加対象
中学生以上

7．募集チーム数
先着 6 チーム（6人でエントリーし、試合は5人が出場する。5人のうち1人はゴールキーパー。）

8．内容
競技方式：4チームずつ2グループに分かれてのリーグ戦
（内２チームはモンテディオ山形のジュニアユースチームが参加）
試合形式：フットサルに準じた特別ルールを採用、6分ハーフ制
景　　品：優勝チームへ棚田米 1俵（ 60kg ）
参 加 賞：各チームに舞米豚
服　　装：靴底に金属製のスパイクが付いているものは禁止。
雪上での大会ですので、温かい格好でご参加ください。
持 ち 物：おにぎり、飲み物等（昼食に「わらび汁」を提供します。）
※その他、当日の日程については表面をご覧ください。

9．参加申し込み（必ずチームでお申し込みください。）
参加者全員の ①お名前、②年齢、③性別、④代表者の電話番号、⑤チーム名、⑥チームのプロフィールを書いて（記載形式自由）、ＦＡＸまたはメールで下記の「お申込先」までお送りください。
申込締切は 2月13日（木）16:00 まで。参加費は当日受付でお支払いください。

【お申込先】大学コンソーシアムやまがた（**FAX**：023-628-4820／**E-mail**：unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp）

～モンテディオ山形杯～ 雪中棚田サッカー大会 in 大蕨【参加申込書】

氏　名 <フリガナ>	年 齢	性 別	代表者の連絡先（携帯）
[代表者名] 1.			TEL：
			チーム名／チームのプロフィール
2.			[チーム名]
3.			[プロフィール]
4.			
5.			
6.			

◎お問い合せ先【大学コンソーシアムやまがた　担当：松田、奈良崎　山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1F／TEL：023-628-4842】

文部科学省　平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択

美しい山形を活用した
社会人力育成
山形講座
の展開

平成25年度社会人力育成山形講座
成果報告フォーラム

山形における人材育成

参加無料
定員50名

山形講座連携校・構成校の教職員及び学生、連携機関の方々、山形講座に関わった地域・企業・行政の方々、高等学校等の生徒の皆様
ぜひお越しください！！

日時	平成26年 2月 8日(土) 13：30～16：30(13：00 受付開始)	会場	ゆうキャンパス・ステーション 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1F

第1部　平成25年度社会人力育成山形講座　成果報告

第2部　パネルディスカッション　「山形における人材育成」
コーディネーター：山形大学　理事・副学長　安田　弘法（事業推進責任者）
パネラー：赤湯温泉ゆかい倶楽部　会長　酒井　綾子氏、米沢信用金庫　理事長　種村　信次氏、
株式会社アスク　代表取締役　河合　克行氏、鮭川村産業振興課交流地域づくり室　室長補佐　佐藤　義弥氏

主　催：大学コンソーシアムやまがた・山形人材育成委員会
（山形大学、山形県立保健医療大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、山形県立米沢女子短期大学、羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、鶴岡工業高等専門学校、山形県立産業技術短期大学校、山形工科短期大学校
山形県、山形県市長会、山形県町村会、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、山形県中小企業団体中央会、(社)山形県経営者協会）

お問合せ先
大学コンソーシアムやまがた・
山形人材育成委員会（山形大学渉外課サテライト）
山形市香澄町１丁目３番15号山形むらきさわビル３階
TEL：023-641-2681　FAX：023-641-2682
e-mail：sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/
社会人力育成山形講座ホームページ：http://sodateru-y.jp/

山形における人材育成

美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開

平成25年度社会人力育成山形講座成果報告フォーラム

日時 **平成26年2月8日(土)**

◆平成25年度社会人力育成山形講座 成果報告　13：30～14：50（13：00受付開始）

◆パネルディスカッション「山形における人材育成」　15：00～16：30

場所 **ゆうキャンパス・ステーション**（山形市香澄町1-3-15　山形むらきさわビル1F）

趣旨

社会が急激に変化する中、主体的に考える力を持ち、社会の様々な課題を解決に導く多様な人材育成をめざし、社会人力育成山形講座がスタートしました。本フォーラムは、平成25年度の本事業取組のまとめとして開催することにより、広く大学内外の方々に当講座を周知し、併せて事業取組について意見交換を図り、より充実した山形講座の人材育成について考えます。

プログラム

総合司会　山形大学 教授　横井　博氏

1. **開会**　(13：30)

2. **主催者挨拶**　山形人材育成委員会 委員長　山形大学 理事・副学長　安田　弘法 氏

3. **第1部**（13：35）　平成25年度社会人力育成　山形講座 成果報告

- 山形フィールドワーク教育　山形大学 准教授　滝澤　匡氏
- 山形プロジェクト教育　東北文教大学 教授　大川　健嗣氏
- 山形起業教育　東北芸術工科大学 講師　池田　知之氏
- 　東北公益文科大学 特任講師　青木　孝弘氏
- リーダーシップ教育　山形大学 教授　柴田　孝氏

4. **第2部**（15：00）　パネルディスカッション

テーマ「山形における人材育成」

コーディネーター：
山形大学 理事・副学長　安田　弘法氏

パネラー：
赤湯温泉ゆかい倶楽部 会長　酒井　綾子氏
米沢信用金庫 理事長　種村　信次氏
株式会社アスク 代表取締役　河合　克行氏
鮭川村産業振興課交流地域づくり室 室長補佐　佐藤　義弥氏

5. **閉会**　(16：30)

◎参加申込み方法

氏名、所属機関（部局）、住所、電話番号、E-mailアドレスを明記し、右記のいずれかの方法でお申し込みください。

FAX **023-641-2682**

E-mail **sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp**

申込み期限／平成２６年２月３日(月)（定員になり次第締め切り）

大学コンソーシアムやまがた・山形人材育成委員会（山形大学渉外課サテライト）

お問合せ先　山形市香澄町１丁目３番15号山形むらきさわビル３階　TEL：023-641-2681　FAX：023-641-2682
e-mail：sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/
社会人力育成山形講座ホームページ：http://sodateru-y.jp/

参加申込書		
	[氏　名]	[所属機関(部局)]
	[住　所]	[電話番号]
	[E-mail]	